矢作町、横田町、竹駒町、気仙町にお住まいの皆様へ

【参考資料４】

令和７年１月２２日

教育委員会だより

日頃、本市教育行政につきまして、ご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

さて、気仙小学校、矢作小学校、竹駒小学校及び横田小学校においては、近年の児童数の減少により、複式学級が設置されております。

このことから、複式学級を設置している４町においては、各小学校における今後の児童数の推移及び学級編成等に係る懇談会等を令和５年度に開催したところです。

令和６年度においても、各小学校における今後の児童数の推移及び学級編成の推移等について、改めてお示しするとともに、今後の在り方に係る懇談会を開催しましたので、各町における懇談会の内容等をお知らせいたします。

１　令和5年度の懇談会等実施状況

学　校　名	項　目	対　　象　　者	開　催　回　数　等
気仙小学校	懇談会	小学校の保護者等、気仙町にお住まいの方	保護者等、今泉地区にお住まいの方、長部地区にお住まいの方　各１回開催
	学校開放		令和６年１月に開催（４日間）
矢作小学校	懇談会	小学校の保護者等、矢作町にお住まいの方	保護者等、矢作町にお住まいの方　各１回開催
	学校開放		令和５年１１月に開催（４日間）
竹駒小学校	懇談会	小学校の保護者等、竹駒町にお住まいの方	保護者等及び竹駒町にお住まいの方　１回開催
	学校開放		令和５年１１月及び１２月に開催（４日間）
横田小学校	懇談会	小学校の保護者等、横田町にお住まいの方	保護者等、横田町にお住まいの方　各１回開催
	学校開放		令和５年１１月に開催（４日間）

２　今後の児童数の推移

学　校　名	Ｒ６年度	Ｒ７年度	Ｒ８年度	Ｒ９年度	Ｒ10 年度	Ｒ11 年度	Ｒ12 年度
気仙小学校	５６人	５３人	６１人	５７人	５７人	５３人	４６人
矢作小学校	２３人	２６人	２６人	２６人	２４人	２３人	２３人
竹駒小学校	４１人	３３人	３４人	３４人	３７人	３５人	３５人
横田小学校	４０人	３７人	３１人	２９人	２６人	２２人	２１人

※令和６年５月１日現在

※「Ｒ７年度」以降の児童数は住所地での人数

※令和１２年度に小学校へ入学する児童は、令和５年度生まれの子どもたちです。

3　小規模な学校の一般的特性（地域）

1　ＰＴＡや地域の学校への関わりが深く、学校への協力体制が整っており、「地域で子どもを育てる」意識が高い。
2　子どもたちに、「地域の一員」としての自覚と感謝の気持ちが育つ。
3　地域の行事に、児童が意欲的に参加する。



4　複式学級（少人数学級）のよさについて

1　児童個々の状況に目が行き届き、きめ細かな指導ができる。
2　意見や感想を発表する機会が多く、思考の深まりや表現力の向上が図られる。
3　解決の見通しを持つ力や、自力学習の力が身につく。
4　一人ひとりが責任ある役割を務める機会が増え、自己肯定感が高まる。

5　複式学級（少人数学級）の課題について



1　「多様な考えに触れる」、「切磋琢磨する」機会が少ない。
2　体育（球技）や音楽（合唱）等、一定の人数が求められる活動が制限される。
3　経験、教科、特性等の面でバランスの取れた教員の配置が難しい。
4　ＰＴＡ活動等における保護者一人あたりの負担が、大きくなりやすい。

6　複式学級（少人数学級）の課題への対応について



1　ＩＣＴ機器の活用。（調べ学習や自力学習、グループ学習の充実。）
2　オンライン等での他校との交流。（コミュニケーション力等の向上）
3　集団での学習活動。（内容に応じて全校での体育や音楽の授業を実施。）
4　学校行事等の合同開催。（令和６年度の実施は次のとおり）

行　事　内　容	対　象　学　年	開　催　時　期
体力づくり運動会	４年～６年 ※矢作小のみ（３年～６年）	令和６年４月
陸上合同練習	５年～６年	令和６年９月
外国語授業	５年～６年	令和６年１０月
オンライン交流（学校紹介、総合発表等）	３年～６年	令和６年１１月、１２月

7　令和6年度の懇談会実施状況

◇　気仙町で開催した懇談会について

⑴　開　催　日：令和６年９月２４日（火）
⑵　開催場所：気仙小学校
⑶　質　問　等：次のとおり

Q：複式学級を展開する学年の組み合わせについて、１年生と６年生という組み合わせもあり得るのか。
A：基本的には、隣合う学年の組み合わせとなる。（１年生２年生の合計、次に２年生３年生の合計、・・・最後に５年生６年生の合計を見て複式学級を決めている。）

Q：統合という話があったが、人数が減り続ければ統合しなければいけないのか。
A：教育委員会では、統合の基準を設けていない。存続したいという声が多ければ存続する形で検討する。ただし、気仙町以外の町で統合を進めたいという意見がある場合は、気仙小を含めて検討する必要はあると考えている。

Q：気仙小学校の建物はとても立派だが、建物については今後どうしていくのか。また、１人でも残りたいという声があれば、統合しないのか。
A：統合の際に、どの建物を利用するかは、協議会を立ち上げて進めていくことになると想定されるが、気仙小学校については、国庫補助金を活用し建設しているため、できるだけ校舎として利用していきたいと考えている。統廃合については、町ごとの意見をとりまとめながら進めていかなければいけないと考えている。

Q：高田小学校に矢作、竹駒、気仙、横田小学校を統合した場合、高田小学校のスペースは足りるのか。
A：高田小学校は、２クラスの仕様になっているため、全部統合した場合でも校舎は十分使用可能ではないかと考える。

Q：子供の人数が少なくなった分、個性を伸ばす教育ができるのか、先生方の意見を聞きたい。
A：生徒数が少ない分、１人１人が活躍する場面が非常に多い。先生方はその活躍を見てチャンスを広げる教育をしてくださっている。

Q：統合の方向で進んでいった場合、最短でどのくらいの期間が必要か。
A：統合となった場合、協議会を立ち上げる必要がある。期間的には４，５年かかると見込みんでいる。

◇ 矢作町で開催した懇談会について

⑴　開 催 日：令和６年９月３０日（月）
⑵　開催場所：矢作小学校
⑶　質 問 等：次のとおり

Q：複式学級の課題はいくつかあるにしろ、いざやってみると問題はない。他の地域の人たちは誤解している部分もあるのではないか。
A：現在では電子黒板を２つ設置し、２学年分の教材を表示している。板書をする必要がなくなり、非常に効率化されている。授業を子どもが主体的に進めるため、家庭学習での自主的な学習にも結びつけられると考えられる。

Q：前回の合併の際に、今後の子どもたちの人数推移はすでに出ていた。そのときにもっと合併するべきだったのではないか。
A：平成２２年度の際は、複式を解消しようという方針であったが、震災によってダメージを受けたことから１町１校を優先した。

Q：統合するならもっと進めるべき。費用対効果がないため、無駄に感じる。
A：財政的に統合を進めようということではない。

Q：６月に小学校と保育園の保護者にアンケートを行い、挙げられた意見としては、少人数の良さはあるが、少人数だから他の学校を検討したり、学童の利用のしにくさがある。長期的に見て、統合は必要と感じるが、それまでの教育環境整備は進めてほしい。また、保護者だけでは意見をとりまとめるのが難しいため、市で進めてほしいという意見がある。
A：すぐに回答することはできないが、学校とも協議をしながら進めていきたい。

Q：複式だと先生たちの負担が大きいと感じる。もっと教員の数を増やし、子どもたちに目を配ってほしい。
A：教員数は県で決めているため、市のほうからも要請を行いたい。

Q：複式について、現場の先生方はどのように感じているのか。
A：２学年分の教材研究や先生が少ないという面は負担に感じている。一方で、子どもたち１人ひとりが主体的に取り組んでおり、成長を感じられる良さがある。

Q：統合の場合、その町の意見だけでは進められないと思うが、どのように進めていくのか。
A：統合となった場合、他の町とも相談して進めることになる。１つ統合するとなると西地区全体で話し合いをする必要もあると考える。

Q：タブレットの利用状況はどうか。勤務先の学校では、タブレットの持ち帰り、家庭で学習を行っているが、矢作小では自宅に持って帰ってこない。
A：ドリル等で活用している。毎日の持ち帰りについては、学校によって異なるが、タブレットの活用は進めていきたい。

◇ 竹駒町で開催した懇談会について

⑴　開 催 日：令和６年９月２６日（木）
⑵　開催場所：竹駒地区コミュニティセンター
⑶　質 問 等：次のとおり

Q：学校行事等の合同開催の参加校はどのように決めたのか。また、竹駒小学校は、存続でも良いと思うが、他の地域が統合となった場合はどうなるのか。
A：複式学級を設置している４校（気仙小学校、矢作小学校、竹駒小学校及び横田小学校）が参加校となっている。また、他の地域が統合となった場合、竹駒小学校を含めて相談させていただくことになると考えている。

Q：小学校の統合又は存続について、いつまでに決めなくてはならないという目処はあるのか。
A：今のところ目処は設けていない。

Q：現在、４町で懇談会を行っているとのことだが、皆の総意をどのように諮るのか。
A：４町の意見をどのようにまとめて行くべきか、教育委員会でも苦慮しているところである。先ずは、４つの地域から意見を伺ったうえで、今後の方針を決めていきたい。

Q：様々な子どもたちが在籍しているなかで、可能であれば、その子に応じた指導をしてほしい。
A：支援が必要な子どもは増えている傾向にある。必要に応じて対応していきたい。

Q：複式の良さや課題に対して、子どもたちからは、どのような意見があるのか。
A：先生方からの意見は聞いていたが、子どもたちからの意見は聞いていなかった。子どもによって感じ方はそれぞれであると考えるため、何かの時に聞いてみたい。

Q：学区外通学を許可する基準はあるのか。
A：両親の職場の都合や就学的配慮が必要であること等、教育委員会で許可基準を設けている。

◇ 横田町で開催した懇談会について

⑴　開 催 日：令和６年８月５日（月）、令和６年８月６日（火）
⑵　開催場所：横田地区コミュニティセンター、横田小学校
⑶　質 問 等：次のとおり

Q：当面は各地区に小学校を残していただきたい。また、児童数が少ないため、中央の地区に本校を設置し、その他の地域には分校という形で維持していくのはどうか。
A：現在、岩手県内において小中学校の分校はない。仮に、分校とした場合、分校には校長が配置されない。分校になると教員定数が厳しくなることが予想される。

Q：支援員が多く配置されているが、人数が生徒の数よりも多いのではと感じる。支援員はどのような立場で子どもたちを支援しているのか。
A：学校の教育活動の中でお手伝いできる部分を委託している。教員の代わりに教科を教えることはできないが、特別な支援を要する児童のサポート等をしており、他の学校からは、支援員を増やしてほしいというニーズもある。

Q：今の人数のままで子どもたちが中学校に行ったときに、寂しい思いをするのではないか。これからの子どもたちにとって一番良い方法を考えることが大切なのではないかと思う。
A：市内の小学校の場合は、各地域との密着度が非常に強く、地域の支えによって子どもたちが育てられてきたことから､統合によって地域との関わりが薄くならないように慎重に検討していきたい。

Q：例えば、横田小学校が統合したいという話になっても、他の地域が存続していくことになれば、横田小学校も存続という形になるのか。
A：統合方法は、各地区の意見を伺ってからの検討となる。

Q：他の学校の児童数の今後の推移はどうなっているか。
A：令和５年度に生まれた子どもは、令和１２年度に１年生になる。このため、配布資料では、令和１２年度までの児童数の推移を記載している。矢作、横田、竹駒、気仙小については、引き続き複式学級が設置された状態が続く見込みである。

Q：このまま、どの学校も存続していきたいとなった場合は、そのまま存続していくのか。
A：４町が存続という意見であれば尊重したいと考える。

8 今後について

○　小学校の今後の在り方については、地域の皆様や保護者と協議を進めながら、各地区の意見集約を図るとともに、より良い教育環境整備を進めたいと考えています。
※　今年度開催した懇談会資料により、地域の皆様や保護者で、小学校の今後の在り方について相談される場合は、懇談会資料を準備いたしますので、下記担当まで連絡願います。

担　当：教育委員会事務局　学校教育課
連絡先：0192-54-2111（内線 521）